

平成 28 年 3 月 5 ～ 11 日付

ホツマツタエ講座

占い結果 アキニの解説

ホツマツタエ研究家 吉 田 六 雄

まえがき

アマテル神が選定したフトマニの 128 番中 3 番の「アキニ」の意味について、ホツマツタエ全文を通じて 下記のように解説文を作成しましたので ご覧下さい。

20アヤ（綾）21～23【本文】

直訳文

	神こと宣れは
ホノアカリ	マウラお召して
占問えは	マウラフトマニ
アキニ取る	東風に氷も融け
罪免る	今春なれば
西の空	タミ（民）疲れなし
吉々と	勅定まる

本文の解説

アキニを解説するヒントは、「タミ（民）疲れなし」にありました。

この「タミ（民）疲れなし」には、特別の意味があるのかと思い、ホツマツタエを読みますと、21アヤ（綾）31～32に、「民のから枯れ あらじなと 長が奢れば 民疲る 疲れて業も から枯れと 訴ふ時に 戒めて 国お治さねば」の文章がありました。

128番中3番

本文 ヲシテ（**○**開糸）

◎**𐤀𐤃𐤃**

◎**𐤀𐤃𐤃𐤃𐤃**

𐤀𐤃𐤃𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃𐤃𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃𐤃𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃𐤃𐤃

𐤀𐤃𐤃𐤃

（注記）

アキニ（フトマニ）の解釈は、3 頁に掲載してあります。

すでにお気づきでしょうが、「タミ（民）疲れなし」は、「長」「アマカミ（天神）」の国を治める善し悪しに起因するようです。このことから、テルヒコが葦原国に降されて、どのような政を行ったかが想像させられます。現在の政治と比較しながら20アヤ（綾）を読むと、理解が深まるようです。

20アヤ（綾）

26 鈴 16 枝 41 穂（紀元前 280 年）頃の話です。アマテル神より日嗣された長男のオシホミミの世も、天照らす

本文（カナ文字）

アキニ

アキニトハ コチニヒ

モトケ ツミノガル ツグ

ミココロノ ハルゾキ

ニケル

頃になり、年老いた春日（殿）より政
り事を休む申し出ありました。

その頃、葦原国の香久山命より申し出
を聞き入れられたオシホミミは、「自ら
葦原国を治めん」と準備をされていた。
そのことを聞き付けたタミ（民）が集ま
って、オシホミミに懇願し葦原行きを思
い留まって頂くことになりました。その
変わり、香久山命の願い入れ「皇子のテ
ルヒコ」を葦原国に降ろすことで、伊勢
の大御神の御許も頂けました。

テルヒコが、十種宝、振る祈詩を賜わ
れる頃になると、テルヒコの葦原国への
進出に対し中国神が拒む話もあり、父オ
シホミミは、中国神の反対を防ぐため、
伴神の総勢３２人を騎馬で葦原国の守り
に行かせることにしました。更に、皇子
テルヒコの八房の行幸車には、五伴の守
る造の五人を当たらせました。

大物主は五組の物部二十五を率き添え
て、伴人総てで八百六十四人が、日高見
を出発され鹿島宮に入られました。

その頃、伊勢に待たれていたテルヒコ
皇子の弟のキヨヒトに、神（アマテル
神）より勅がありました。今、テルヒコ
の皇子が鹿島宮に入ったので、「キヨヒ
トとタチカラオは早船で行き、沖に係留
している岩楠船で進むべし（進んで下さ
い）」。その言葉よりて皇孫（キヨヒ
ト）とタチカラオは、ワニ船に乗りて、
上総（千葉県）の九十九にお着きになっ
て、その足で香取宮に入られました。

早速、キヨヒトは、兄のテルヒコに、アマテル神の勅を報告されました。

「神こと（アマテル神が）宣れ（口に出して云われることに）は、葦原国に降ろすホノアカリ（テルヒコ）の行く末が心配である。八代目のオオヤマスミ（カグヤマオキミ）の五子のマウラお（を）召して、占ってくれ」と申されました。

占問えは（その結果）、マウラが占ったフトマニの掛は、「アキニ」取ると出て、その意味は、「東風に氷も融け 罪免る 今春なれば 西の空 タミ（民）疲れなし吉々」と出ました。

これで、アマテル神の勅が定まりました（る）。この後、二ニキネとタチカラオは、足を延ばされて日高見で政務をされていた君（オシホミミ）、天御祖神を拝まれて、フトマニの掛が良かったことを報告されました。そして、二人は伊勢に帰られて、アマテル神に一部始終を報告されたのでした。

128番中3番

本文 ラシテ (☉開糸)

☉市糸

☉市糸糸

田糸糸瓜

母糸糸

卒糸田①糸

卒糸

糸田田奥田

①糸母市

糸糸糸

解説

アキニ

アキニとは 政が滞ると厳冬時に水が氷になるように荒れるものである。治世が良くなると、春、東から吹く風に、氷も融けるように世も平穩になる。そして、新たなアマカミ（天神）は、タミ（民）が昔に侵した罪や悪しき身をも免せるものである。これも新たに天日嗣ぐ、アマカミ（天神）の御心の賜物ぞ。この国に御心と云う東風が来て、やっと、春ぞ来にける

直訳文

アキニ

アキニとは 東風に氷
も融け 罪免る 嗣ぐ
御心の 春ぞ来
にける

この「アキニ」の解釈を、アマテル神が心配した「葦原国に降りたテルヒコの治世」に重ねて読むと、「アキニ」の意味がわかって来るようです。

【スス暦（吉田説）】

26 鈴 16 枝 4 1 穂

紀元前280年頃（吉田説）になる。

【デジタル大辞泉の解説】

宣れは

宣る／告る、

〔動ラ四〕 告げ知らせる。述べる。口に出して言う。

〔補説〕本来は、神や天皇が重大な事実を宣言する、また、みだりに言うべきでないことを表明する意で、後世は「名のる」に残存する。

【ホツマの記述】

ホノアカリとは

テルヒコ、クシタマホノアカリ、飛鳥親王

マウラとは、

八代目のオオヤマスミ（カグヤマオキミ）の五子で、後の紀元前245年頃に神上がりと真占神を賜る。

タミ（民）疲れなし

21 アヤ（綾） 31～32

民のから枯れ

あらじなと

長が奢れば

民疲る

疲れて業も

から枯れと	訴ふ時に
戒めて	国お治さねば

ツミマヌカルル

17アヤ（綾）81～82

	天は意に知る
地に応ふ	人は告げ知る
この三つに	告げあらはれて
公の	罪免ぬかるる
ところなし	